



2012.10.20 発行

めんたるねっと

YMSN 情報誌

(特定非営利活動法人) 横浜の介護サービスネットワーク

第34号

Vol. 9 No. 2



シンポジウム報告	横浜市自立支援アシスタント事業～10年の歩み～	1
SSTの現場から	北海道での経験交流ワークショップに参加して	3
就労の現場から	A型事業所「いぶき」(横浜市戸塚区)レポート	5
地域の現場から	訪問看護ステーション leaf の活動	7
	予定・報告	9

10年の歩み 横浜市障害者自立生活アシスタント事業 ～ 地域で暮らし続けるために ～

はじめに

7月2日(2012年)、横浜市主催で関係機関向けに横浜市障害者自立生活アシスタント事業(以下「自アシ」と省略)のシンポジウムが開催された。

自アシが開始されてから10年経過したとはいえまだ十分に知られていない。このシンポジウムでまず自アシの事業内容を関係機関に知ってもらい、上手に利用してもらいたいという目的で行われたものである(この日のために市内のこの事業に携っている担当者は、それぞれ役割分担しグループごとに数カ月前から準備をすすめてきた。私もその中の一人として参加した)。

当日は横浜市健康福祉総合センター(中区桜木町)のホールを会場に開催された。300名が入るホールに満員となった。関係機関関係者の関心の高さをうかがわせた。

シンポジウムの内容

当日は以下の内容で進行した。

- | |
|--|
| 第一部 障害者自立生活アシスタントとは
基調講演「地域で暮らし続けるために」
神奈川県社会福祉士会
事業概要「自アシができた歴史と支援の特徴」
第二部 事例発表
① 「退院してからの暮らし」
② 「夫婦で暮らした10年」 |
|--|

自アシ事業は2012年10月1日現在、市内35カ所の事業所で事業を行っている。平成13年度に知的障害者を対象として開始されたが、第一部の成立の歴史で何故この事業が開始

されたかが説明された。

簡単に要約すると国の「知的障害者高齢化対応施策検討委員会報告書」(平成12年)で本人の高齢化と家族の高齢化の視点から検討された課題提言を受け、横浜市が独自に親の日常の役割を社会化する支援として企画検討を行い成立に至った事業である。

また、第二部の事例では特に「連携」にポイントを置き関係機関の連携の中で支援している事例が紹介された。

①では精神障害者の方の支援が紹介された。主な支援は引越しと服薬管理である。支援の経過やカンファレンスの様子関係機関の方、本人のインタビューと全て映像を入れながら分かりやすく組み立てられている。

当初、医療機関側としては、地域での一人暮らしが難しいのではないかと考えていたのが、生活保護担当者の言葉によって「できるかもしれない」という方向に考え方が変わっていき、地域での一人暮らしがさらに自アシの支援によって現実化した事例。また、服薬管理もできていないと言う不安点もあったが、訪問による助言で、本人が薬をカレンダーに整理し自己管理する流れができていったという例である。

②では知的障害の方のやはり関係機関と連携しての支援が紹介された

参加者からの声

シンポジウム終了後アンケートで参加者の意見をいただいた。概ね好評で好意的な意見が多かった。幾つかを紹介すると

- ・金銭管理のことだけでなく生活全般について相談してよいのだということがわかった。
- ・思ったより密接な関わりをしていただけたのだと感じた。
- ・区のスタンスとして「一緒に悩む」ことができればと思う。
- ・社会資源とつなげるだけでなく当事者の意思決定ができるようにする様細やかな支援を行っている。
- ・本人にとって自アシが一番身近な存在なのではなく、あくまでチームの一員であり連携をとって支援していくことが重要である。
- ・どんな事業なのか、いまいち分からなかったが「親が日常行っている支援を社会化した事業」という説明で具体的にわかった。
- ・自己決定へのサポートに重点を置き、支援をしていることを実感した。

また、要望として

- ・対応の困難事例についても自アシとしての課題や今後の支援体制のあり方など提起してもらえるとなお良かった。

という意見もあった。

アンケートの記入を見る限り『連携』をポイントにしての事例は良く伝わったと思われるし「細やか」な支援を評価している意見も多かった。

終わりに

このシンポジウムは関係機関の方々に自アシ事業の支援内容を具体的にイメージ化したり、連携が重要ということの理解を得るために一定の成果はあげられたのではないかと思う。

一方、現在の課題に言及することはできていない。自アシ事業は10年経過したとはいえ、支援

や取り組み方法については、まだまだ試行錯誤が続き「この方法が良い」といった質的な向上が望める支援のパターン化はできていない（個々に寄り添う形でその利用者に合うような方法は基本的にパターン化等になじまないのかもしれないが）。また、支援の終了のめどが立たないケースのものも徐々に出てきている。

この先この体制でどこまでやれるか？ということも含め、まだ整理されていない課題やそれについての対処についてはこのシンポジウムをスタートにし今後関係者が真剣に検討を重ねていく必要があると思われる。

YMSN 森川充子



第18回 SST 経験交流ワークショップに参加して

横浜舞岡病院 木村幸代

プロローグ

去る6月22日(金)～23日(土)、北海道の札幌市内にある北翔大学北方圏学術情報センター「PORTO」で、第18回SST経験交流ワークショップが開催され、参加させていただきました。参加の目的はもちろんSSTの研鑽の為・・・? ではありませんでしたが、梅雨のないさわやかな札幌の気候や日常業務から離れての気分転換も目的のひとつでした。

さわやかな気候については残念ながらの天候(曇りと雨)で期待外れとなってしまいましたが、本来の目的は期待以上の成果として心地良い満足感とともに心に刻まれました。

2日間行われた模様をエッセンスだけ上手にお伝えすることは、私の能力を考えるとどれだけできるか心配ですが、SSTを実践するものとして、学びの場に集う楽しさや、リフレッシュできるチャンスにもなることを少しでもお伝えできれば幸いです。今回のご報告はあくまで「ワタシ目線」。次回ワークショップはぜひ「アナタ目線」でご覧下さい。

～会長講演～

毎回楽しみにしているのが会長講演で、今回の大会テーマ「生きる力を励ますSST～深く、高く、そして幸せに～」をどのように西園昌久会長が展開し、私たちに熱いメッセージをくださるのかワクワクして会場に入りました。

昨年の大震災や自殺予防策に触れ、「生きる」と

は」や「生きる力」について話を展開され、面接を通じてどのように支援していくのかをご自分の日々の臨床を通してお話いただきました。また、ナチのユダヤ人強制収容所での体験を基に書かれた「夜と霧」(精神科医V. Frankly)から「生きる意味」を考察し、人は極限状況に置かれた場合でも、本人が取り組んできた本来の役割なり、仕事を思い出す。だからこそ日常どう生きているかが大切であるという事を語って下さいました。そして、それらから展開して、当事者の直面している困難や苦痛を感じ取り、読み解いて返すことの重要性や、それらを踏まえたロールプレイのテーマの展開、そして治療者のモデリング内容とその質が問われることを語って下さいました。

ロールプレイのテーマ選択並びにモデリングにおける治療者の態度として、

- ・今ここでの感情体験
 - ・ユーモラスに、時に深刻に
 - ・患者にとって受け入れやすいテーマ
 - ・患者にとって意味ある体験
 - ・患者の直面している困難や苦痛を感じ取り読み解いて返す
 - ・患者への押し付けにならないように
- などなどの具体的なご指導を頂きました。

～ワークショップ～

今回どんなワークショップがあったのかご紹介しましょう

- ・家族支援にSST

- ・ もう一度 SST の基本を学ぶ
- ・ 司法領域における SST
- ・ 就労支援一当事者と支援者に役立つ SST
- ・ 発達障がい・知的障がいのある人を支援する SST
- ・ レッツ当事者研究
- ・ 訪問の現場に SST を活かすためのワークショップ
- ・ 入院・慢性期患者への SST の工夫
- ・ デイケアが活性化する SST のノウハウ実践編
- ・ ベラックのステップバイステップ方式を学ぶ

ちなみに、私が参加したワークショップは「発達障がい・知的障がいのある人を支援する SST」と「訪問の現場に SST を活かすためのワークショップ」です。特に前者は現場ではあまり経験できず、ぜひ学びたいと思い参加しました。いずれも講師からの一方的な講義でなく、双方向的なやりとりが多く、グループワークもとても楽しいものでした。また、参加されている各地の多職種の方々との交流もでき、とても素敵なパワーや刺激を頂くことができました。

エピローグ

今回の参加の主な目的であった SST の研鑽は、今まで記述してきたとおり十分目的を果たせました。そして日常業務から離れての気分転換は、ワークショップでの交流や、情報交換、懇親会での交流等を通じて十分出来ました。更に札幌と横浜という物理的距離を飛行機という非日常的な交通手段で移動すること自体ワクワク体験でした。

昨年度の大震災や近年の大雨・竜巻などの異常気候、政治や経済の停滞など、私たちを取り巻く生活環境は厳しいものがあります。日々の業務で

思うことは、健常者も障がい者も共に「生きる力」をお互いに励ましあっている日々を送っていききたいもので、その手法の一つに SST があるのではないかということです。

最近気になっている「人」は、100歳の映画監督として生涯現役を貫かれた映画界の新藤兼人監督。「生きている限り生き抜きたい」をモットーに「生きる」ということを追求した人生だったと聞いています。今回のテーマと通じているものがあり、私自身のこれからの生き方をも考えさせられる壮大なテーマを頂いたワークショップだった気がします。

最後に西園会長が講演の中で紹介されたイギリスの詩人 Alfred Tennyson の言葉を紹介して終わりにさせていただきます。

「今日の私はこれまでに会った人の贈り物である」

就労継続 A 型事業所「いぶきの風」

～ 実社会に近い仕事の環境 ～

戸塚就労支援センター 落合由希子

戸塚駅からバスで 10 分のところにある、株式会社一颯（いぶき）就労継続 A 型事業所「いぶきの風」へ行ってきました。そこで同社社長の笹島卯（かごしましげる）さんにお話をうかがえたので報告をしたいと思います。

いぶきの風は、笹島さんが地域活動ホーム等で働いていた時代に、通所している方々が次のステップへ行きたいが受け皿が無く、笹島さん自身も近所のお店などに掛け合ってもなかなか話を聞いてもらえない状況だったそうです。

また、能力がある方々が最悪、失敗した時に戻れる場所が無いがために、踏み出すことが出来ない、とも感じ、みなさんの力を発揮できる場所を作りたいとの思いで平成 23 年に「いぶきの風」を設立されたそうです。

現在、「いぶきの風」では 25 名の方が働いており 30 代後半～40 代の方が多く男女比は男性が 6 割程度となっているそうです。

いぶきの風での仕事内容は内部の仕事として名刺・パンフレット等の印刷、ポスティング、文房具の組立、外部の作業として、蒔田や戸塚での接客・調理補助を行なう食堂やカフェがあります。また上大岡ではネイルサロンも展開をしています。

仕事の種類が多く、内部の仕事は途切れない様になっており残業も頻繁にあるそうです。



そんな「いぶきの風」へ通うための流れと、どんな方に働いてもらいたいと聞いてみました。

- ① ハローワークに求人が出る。
- ② 見学し面接をする。
- ③ 1 週間の実習を行う。
- ④ お互いが良ければ正式利用

という流れです。ただ、直接問い合わせがあった場合にもその方の働きたいと強い希望があれば面接をする場合もあるそうです。

一番は協調性があり、みんなと仲良くできる人。仕事の種類が多いので、どの仕事も嫌がらずに行ってくれる人。ただ、障がいに応じてペアを組んで仕事をするのが苦手な人もいますので、そこは無理をしないで 1 人でやってもらう場合もあり配慮している点だそうです。

3 障がい（身体・知的・精神）を受け入れていることで良かったところと大変なことを聞いてみました。



「良いところとしては年代の幅があるので年長者が若い人に仕事を教えたり仕事に対する姿勢を伝えたりしていると思う。また、色々な社員がいるため色々な接し方があるのでより実社会に近い環境で働けると思う。また大変な点はないです」とハッキリ話されていました。

ポスティングから帰ってきたばかりの男性の方にお話を伺いました。

「自分は今年の11月から働いている。自分みたいな年寄り（50歳代）を働かせてくれてありがたいです。とても皆さん良い方でよかったです。現在は週4日の勤務なので早く体を慣らして週5日の勤務を目指したいです。配慮をしてもらいながらお給料をもらえてありがたいです」と籠島さんと笑顔で急なインタビューにも答えていただきました。

最後に籠島さんへ今後の展望を聞いてみました。

「みなさんに仕事の楽しさを味わってもらいたい。その中で年金と『いぶきの風』のお給料で生活をできるようになってもらえればと思います。そのためには繁盛店を1軒でも作り収益を上げていきたい」と籠島さんは話されていました。

今回、お邪魔して感じたのは、とても皆さんが真面目に仕事はしているが、籠島さんが話かけると皆さん笑顔で返しており、これが籠島さんの話していた「仕事の楽しさ」なんだと思いました。また、今回の取材はお店ではなかったもので、次回は食堂かカフェでゆっくりランチを楽しみたいと思いました。みなさんも是非一度、足を運んでみてください。

※ 就労継続支援A型(雇成型)とは

就労支援継続支援事業には、A型(雇成型)とB型(非雇成型)があります。

A型は、事業主と社員の間で正規の雇用契約を結んだ事業所です。したがって、賃金体系や労働法規などの適用が求められます。(HPより)





地域の取り組み

訪問看護ステーション leaf の活動

特定非営利活動法人地域精神医療ネットワーク

訪問看護ステーション leaf 所長(管理者) 桐山啓一郎

訪問看護ステーション leaf(以下 leaf)は、平成24年2月横浜市金沢区に開所した精神疾患・精神障害の方々を対象にした訪問看護ステーションです。現在、訪問看護師6名(常勤4名、非常勤2名)が所属し、金沢区を中心に、栄区、磯子区、港南区、逗子市、横須賀市などに精神科訪問看護を提供しています。

私たちの母体である特定非営利活動法人「地域精神医療ネットワーク」(以下当法人)は、地域精神医療保険福祉従事者の方々がネットワークを作り、地域の間でもチームで当事者の方々を支えることを目的に設立されました。横浜市は全国と比較しても精神障害者の方々が利用できる福祉資源は多く、当法人ではネットワークをより強化するために定期的な交流会などを開催していました。そのような活動の中で、横浜市は作業所やグループホームなどの福祉資源は多いことが特徴であり、その反面、訪問して医療を提供する資源が少ないことが課題として浮き彫りとなりました。とりわけ当事者の方々が当事者が暮らしている場所で、医療と生活の面から支える精神科訪問看護を提供する訪問看護ステーションは横浜市全域を見渡しても数か所しかありませんでした。ネットワークに入っておられる方々からも精神科訪問看護を提供する訪問看護ステーション設立の要望が強かったため、地域全体で当事者の方々とご家族を支えるネットワークの一つとして leaf を設立しました。

leaf を設立した際のコネプトは、「当事者の方々に安心をお届けすること」でした。地域で生



活されている方々は、自分の力で日常生活を営む必要があります。日常生活には、ちょっとした不安があり、「本当にこれで良いのか」と迷うことが多いと思います。このような時に、ちょっと相談に乗ってくれる人や、見守ってくれる人がいることで安定した地域生活を送ることができると思います。leaf の看護師が精神疾患や精神障害をもつ当事者の方々に訪問看護を提供することで、症状や障害が劇的に改善することはなかなか難しいかもしれませんが、しかし、医療や生活の視点をふまえながら当事者の方々とともに考え、悩み、見守ることで当事者の方々に安心していただき、その安心が地域生活の継続の一助になるのではないかと考えています。



leaf の特徴としては、24 時間の電話相談を行っていることです*。訪問看護ステーションはそれぞれに特徴があり、提供しているサービスも数種類あります。24 時間の電話相談や 24 時間の訪問を行うかは、各ステーションの方針と人員態勢等によって判断されます。leaf は人員態勢が整っていないため 24 時間の訪問は原則として行っていませんが、当事者の方々が安心して地域生活をおくっていただけるよう、24 時間電話で相談できる体制をとりました。開所当初は、少ない人数で 24 時間 365 日電話を携帯することに対する懸念もありましたが、スタートしてみると予測したよりも電話の件数は少なかったことに驚きました。leaf の利用者の方の中には、利用し始めた頃に夜中に電話をかけてこられ「あっ、本当に電話に出てくれるんですね」と確認されたことがあります。その方はその後ほとんど電話をかけてこなくなりました。何か困ったことや心配事があった時、24 時間相談できることがわかったことで、安定した生活につながったのではないかと思います。

開所から半年が経過し、leaf を利用してくださる方々は 50 人を超えました。開所後半年としては予想よりも早く皆様にご活用いただけたことに驚きつつ、地域には多くのニーズがあったのだと強く感じています。訪問看護ステーションとしてはまだまだ未熟ですが、皆様と一緒に一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

※24 時間の電話相談は 24 時間連絡体制加算を算定させていただいている利用者様に限ります。

Information

○訪問看護ステーション leaf

営業日 月曜～土曜(祝日・年末年始を除く)

営業時間 8 時 30 分～17 時 15 分

〒236-0021

横浜市金沢区泥亀 1-17-20 文庫太平ビル 1 階

Tel&Fax : 045-353-4770

新規の利用相談やお問い合わせは桐山まで。

研修会のお知らせ

■精神保健福祉研修会 参加費1回 500円（年間4,000円）

日 時： 毎月第2金曜日(全12回) pm. 7:00～8:30
 場 所： YMSN研修室（上大岡駅 徒歩5分）
 内 容： 「住まい」を考える
 ホームページをご覧ください <http://forest-1.com/ymsn/>

■SST(生活技能訓練)研修会 参加費1回 1,000円（年間7,000円）

日 時： 毎月第3木曜日(8月・11月休会 全10回) pm. 7:00～9:00
 場 所： 横浜市総合保健医療センター 講堂
 全体会： 「精神障がいと回復」リバーマン著書輪読会
 分科会： A. モジュールを学ぶコース B. リーダー体験コース C. ビギナーズコース

当事者のためのグループ活動のお知らせ

詳細は各支援センターへお尋ねください

就労講座	港南区生活支援センター	毎月第3水曜日（原則） pm. 2:00～3:00
就労フォローアップミーティング	YMSN	OB会の開催（不定期）
SST	YMSN(就労者のSST)	毎月第1土曜日 pm. 1:00～2:30
当事者活動	めんちゃれ	就労している当事者活動（年4回）

会員について

会員を募集します。YMSNの活動を応援していただける方は会員になってください。（会費 正会員年間5,000円）
 会員は、研修会（上記案内）への年間参加費が割引になります。
 精神保健福祉研修会（1,000円） SST研修会（3,500円）
 会員へは、情報誌が無料配付されます。

正会員5,000円（個人） 賛助会員12,000円（団体）
 （正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付）

振込先：郵便振替口座 00250-6-71607
 横浜メンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol. 9 No. 2

めんたるねっと 第34号 2012年10月15日発行
 間購読料1,000円（年4回発行） 1冊頒価300円

発行：NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク

理事長 鈴木弘美 編集代表 森川充子

〒233-0002 横浜市港南区上大岡西 1-12-3-204

TEL 045-841-2179

FAX 045-841-2189

<http://forest-1.com/YMSN/>

e-mail: YMSN@forest-1.com

印刷：横浜市総合保健医療財団

就労移行支援事業所 港風舎